

令和2年7月10日
信州大学附属長野中学校
校内研修会

新教育課程を先導する道徳教育への課題

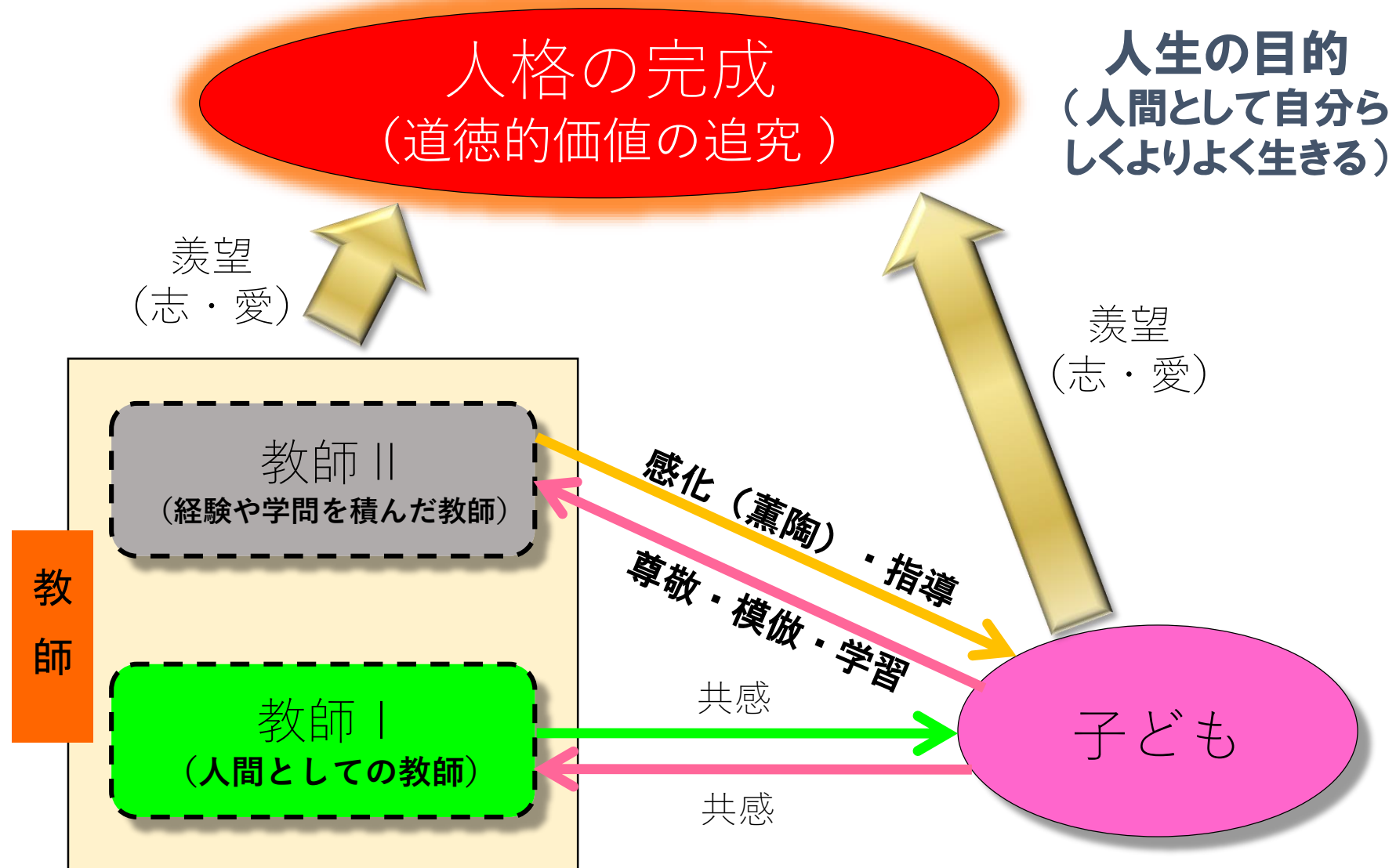
—「特別の教科 道徳」を要として—

武庫川女子大学

押谷由夫

道徳教育の基本的押さえ

(1) 教師自身の生き方が問われる (子どもと一緒に学ぶ)



（２）科学と道德の共存

- ・今日の社会は科学の発達抜きには考えられないし、これからますます加速度的に科学が発展することが予想される。だからこそ道德教育の役割が一層強調されなければならない。

表１ 科学的思考と道德的思考の主な特徴

科学的思考の特徴	道德的思考の特徴
・客観性の重視（冷徹な心）	・主観性の重視（温かい心）
・批判的精神の重視（疑う心）	・受容的精神の重視（信じる心）
・厳密性の重視（厳格な心）	・寛容性の重視（許容する心）

(3) 教育課程で求められる資質・能力の三つの柱 —モラル・アクティブ・ラーナーを育てる—

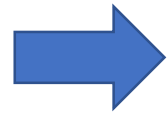
- ① 「何を知っているか、何ができるか」(個別の知識・技能)
- ② 「知っていること・できることをどう使うか」
(思考力・判断力・表現力等)
- ③ 「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」
(学びに向かう力、人間性等)

すべての学びが人間としてよりよく生きることへと
方向づけられることが大切である

つまり、モラル・アクティブ・ラーナーを育てることが目標となる
(そのための学びが、モラル・アクティブ・ラーニングである)

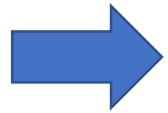
(4) 主体的・対話的で深い学びとは

主体的



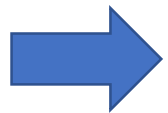
自ら興味関心を持って取組むこと

対話的



様々な対象と双方向的な関わりをもつこと

深い学び



より深く自らに問いかけ、興味関心や双方向的な関わりを深めて、学びを発展させていくこと

自らの生き方（よりよい自己形成とよりよい社会づくり）
に深く関わっていける学び

(5) 道德教育を充実させることで 人間観、指導観、評価観を変えていく

人間観

誰もがよりよく生きようとしている
(子どもへの信頼、リスペクト)

指導観

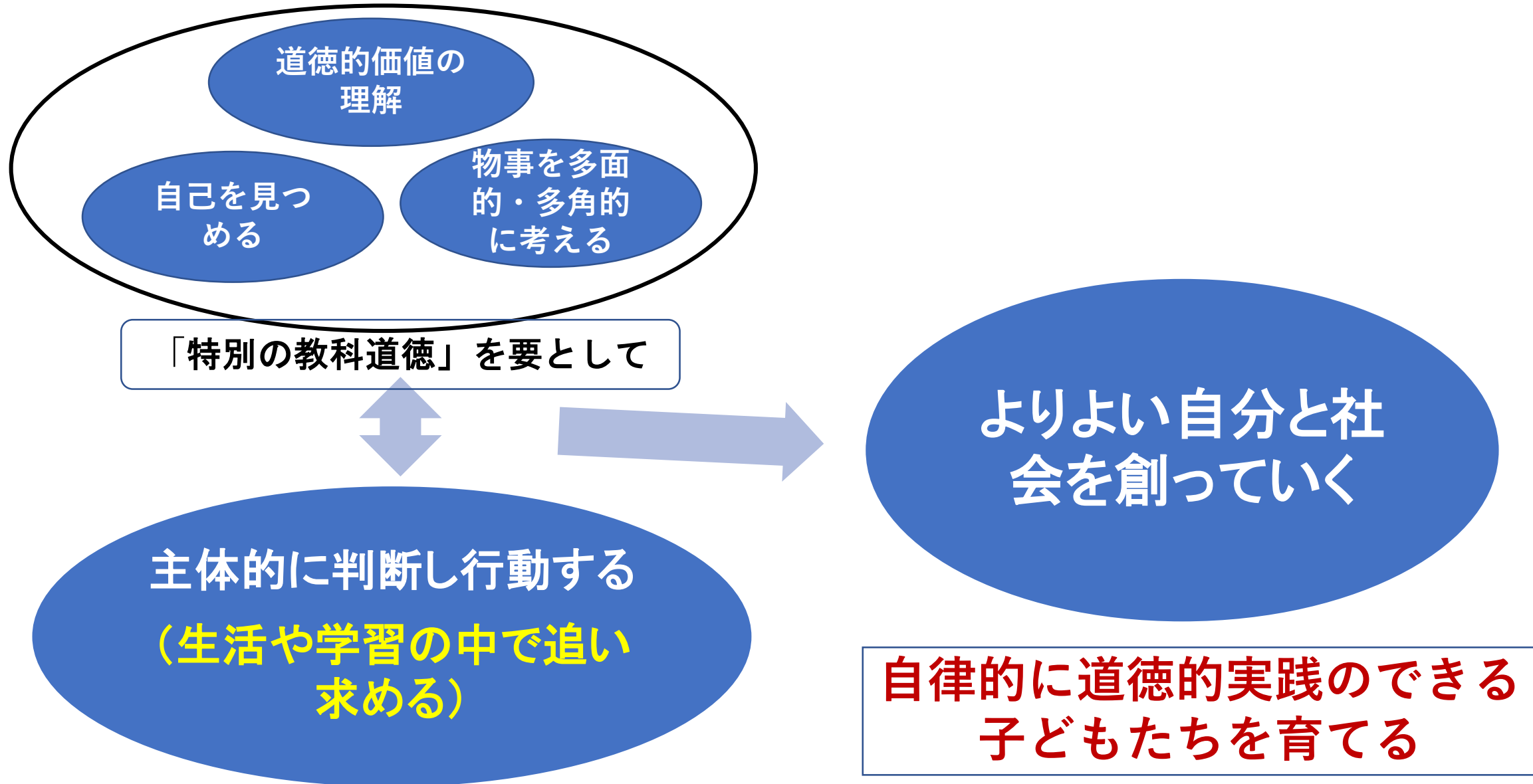
多様な主体的・対話的な学びを通して子
ども自身が内なる力を伸びていく

評価観

一人一人のよりよく生きる心や力の成長を評価
する (自己評価・自己指導につなげる)

2 道徳教育と「特別の教科 道徳」の目標の一体化

(1) 目標のポイント



(2) 道徳的諸様相について

道徳的判断力
(知)

- ・ 善悪の判断
- ・ 人間としてどうすればよいのかを判断する力

道徳的心情
(情)

- ・ 「人間として望まれる事象や状況」に喜びの感情をもつ
- ・ 「人間として望ましくない事象や状況」に不快の感情をもつ
- ・ 「人間として望まれる事象や状況」を行いたいという思いをもつ
- ・ 「人間として望ましくない状況や事象」をよくしたいという思いをもつ

道徳的实践意
欲・態度
(意)

- ・ 人間として望まれることを自分らしく実行しようとする構え
- ・ 人間として望ましくないことはやめておこうとする自制心
- ・ 意欲的に取り組んだことがうまくいかず落ち込んだときに、そこを乗り越える力（レジリエンス）

道徳的实践

(日常生活や様々な学習活動の中で)

3 道徳教育の指導内容の捉え方

(1) 4つのかかわり（自分自身、人、集団や社会、生命・自然や崇高なもの）ごとに、かつ学年段階ごとに重点的に示されている

- ・ 指導内容は、4つのかかわりを豊かにし、人間として自分らしくよりよく生きるために必要なものである

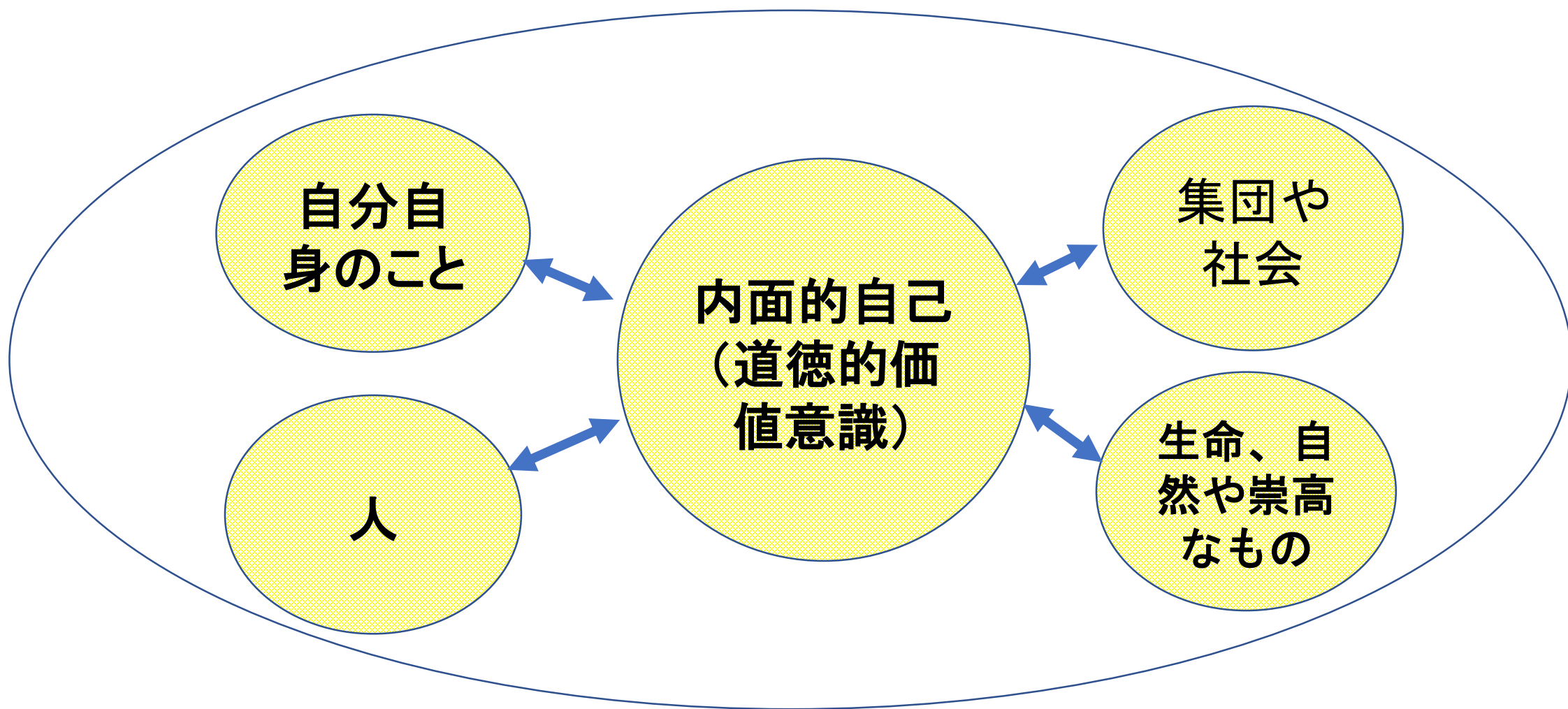


道徳性の育成はかかわりを広げ深めていくことが大切

それが道徳的実践である

(2) 内面的自己と4つの対象との関わりを豊かにすることは

★現実生活の中で自律的に道徳的实践ができるようになること



4 「特別の教科 道徳」の評価

(1) 評価の根幹

「特別の教科 道徳」の評価観は、従来の評価観を
180度転換することを求めている



教えたことをどの程度理解し身に付けたかを中心とする評価観から子どもたちが本来もっているよりよく生きようとする心をいかに目覚めさせ、引き出したかを中心とする評価観へ

★個人内評価で成長した道徳性を記述式で示し一人一人を勇気づける

(2) 子ども自身の自己評価・自己指導につなげる

子どもたち自身が自己評価・自己指導を深めて
いけるようにすることが大切



道徳ノート取り組み
(子どもたちの一生の宝物となるようにする)

(3) 子どもへの評価で最も大切にすべきこと

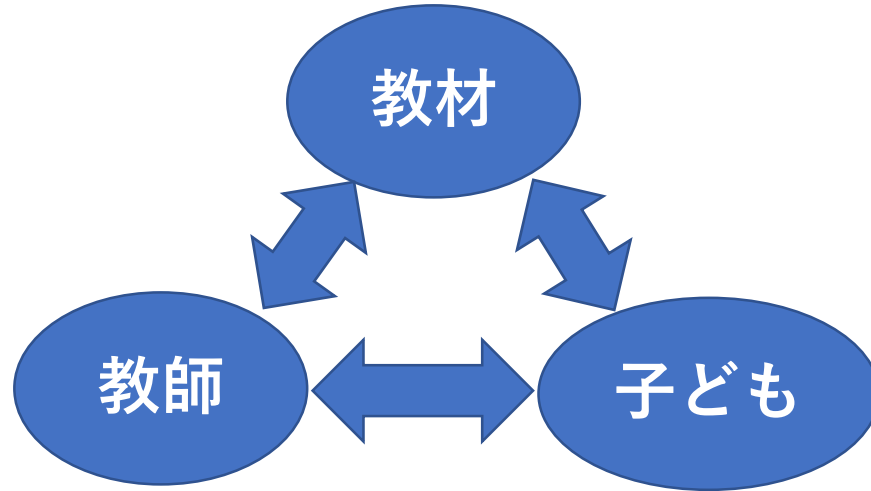
★ 子どもたちのよりよく生きようとする心に関する
「よいところ探し」が評価である

- 1 子どもたち一人一人への愛情表現である
- 2 子どもたち一人一人への信頼の証である
- 3 子どもたち一人一人へのリスペクト（敬意）を示す
- 4 よさの成長を根気強く見守る
- 5 保護者の信頼を得る

（保護者会等で説明する、学校通信や学級通信等で知らせる、保護者からも子ども評価をしてもらう等）

4 道徳の授業を充実させる

(1) 教材研究の基本を押さえる (教師自身が何を感じるか)



- ※ 道徳の授業は教材を媒介にして教師と子ども、子ども同士の心の交流を図ることが基本
- ※ 子どもたちが教材から何を感じるかと同時に**教師自身が何を感じるか、何を考えさせられるか、何を学びたいかを押さえることが大切**

(2) 学習指導案作成のポイント

1. 教材から自分自身が心を動かされるところ、考えさせられるところはどこか



2. それはなぜかを考える（道徳的価値が関わっているはず）



3. 子どもたちはこの教材のどこに心を動かされるかを予測する



4. 考えたいこと、確認したいこと、伝えたいことを子どもたちの心の動きや発言を予想して整理しねらいへとせまれるようにする

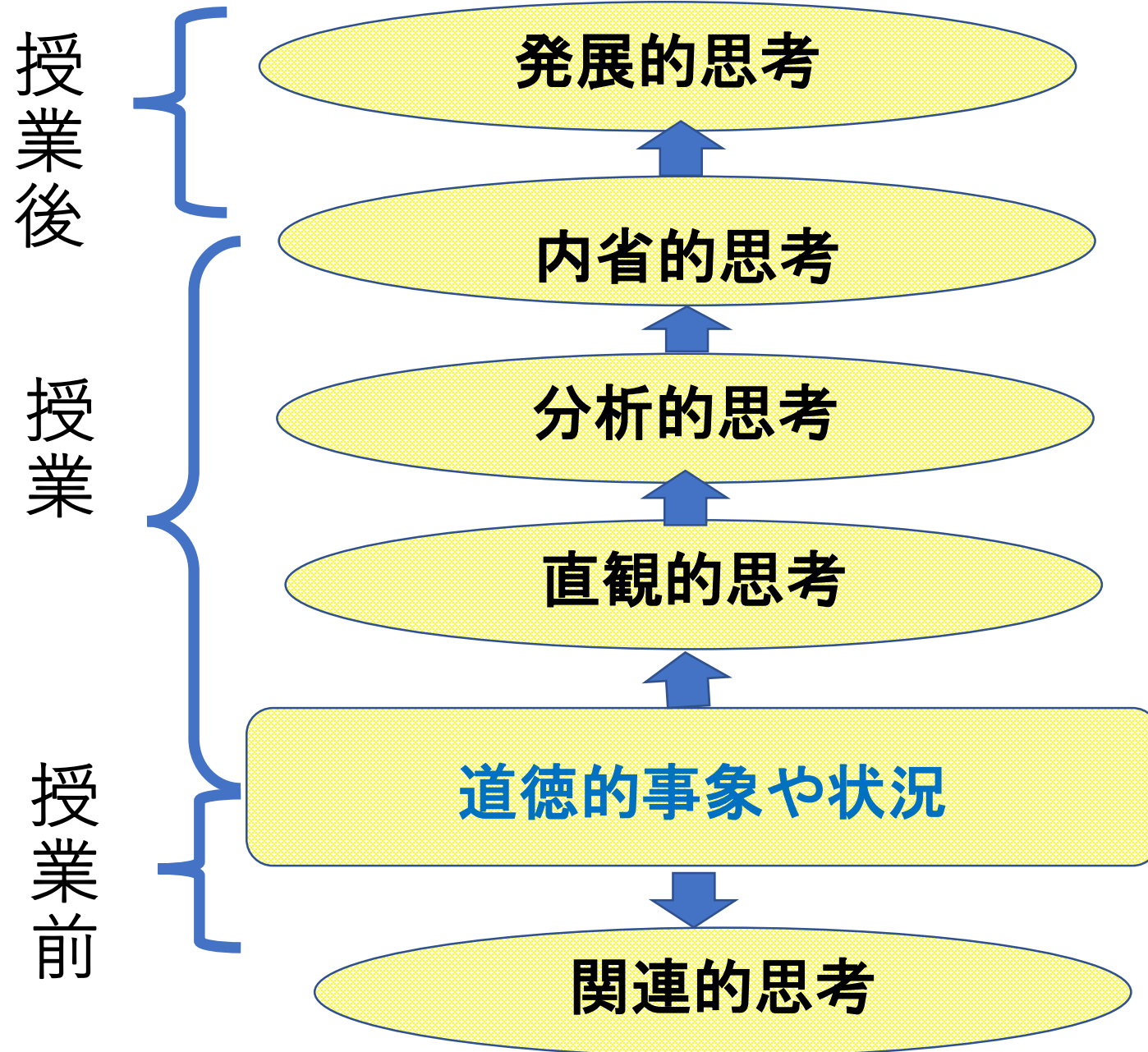


5. 子どもたち自身が自らへの問いを深められるようにする

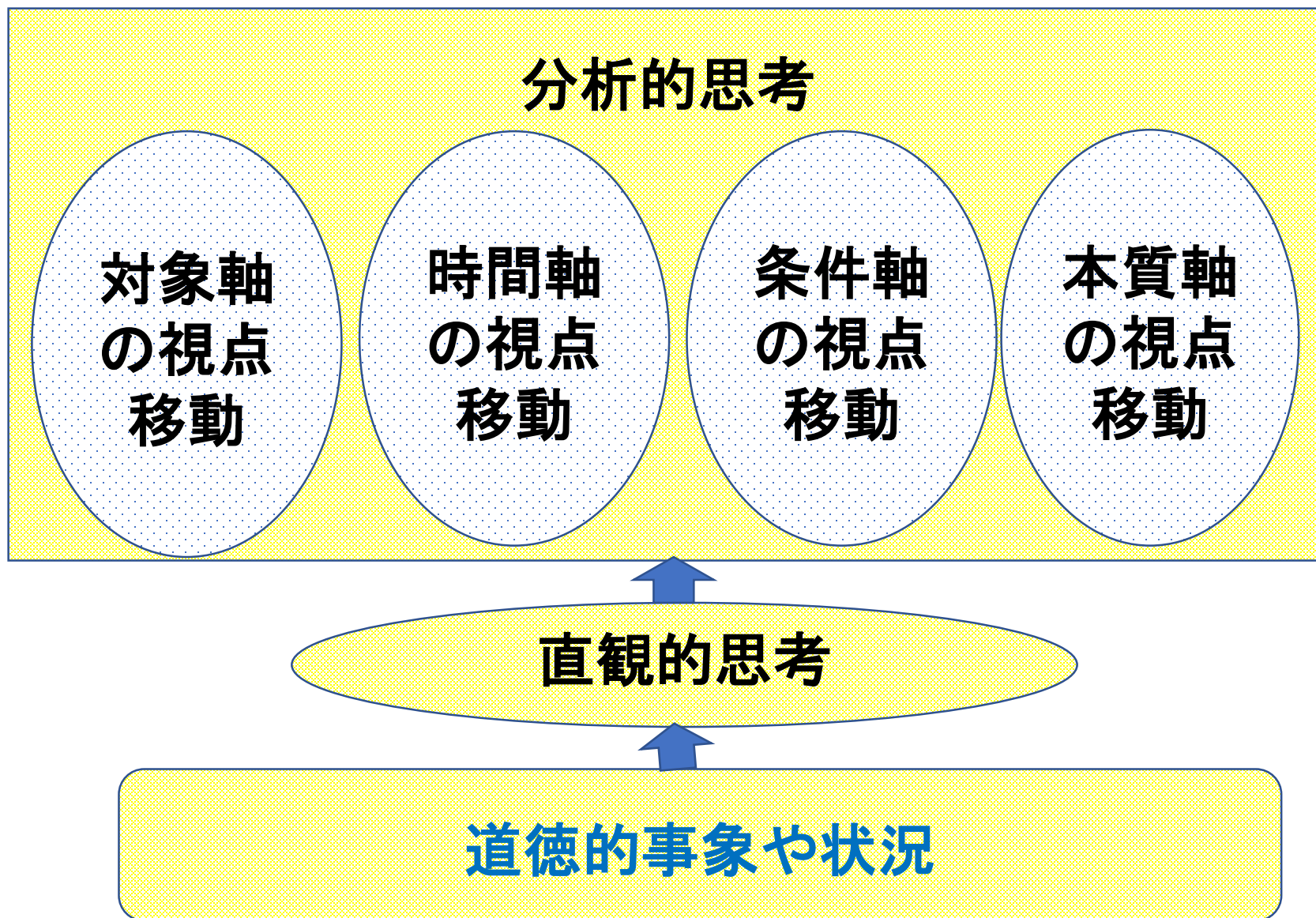


6. 課題意識をもたせて授業後の学びへとつなげられるようにする
（併せて事前の学習としてどのような押さえが必要かを考える）

(3) 道德の授業における基本的思考



(4) 直観的思考と分析的思考を大切にする



- ・対象軸の視点移動

相手の立場に立って考える、第3者の立場で考える、誰かがこの場にいることを想定して、その人の立場から考える、自分だったらどうするかを考える、等

- ・時間軸の視点移動

前はどうかあったのだろうかを考える、このような状態だったら（このような考えをもっていたら）これからどうなるのだろうかを考える等

- ・条件軸の視点移動

条件や状況を変えて考える、仮説的に考える（もし批判的に考えるとどうなるか、もしこのような状況で考えればどうなるか等）、比較して考える、この状況を解決しようとすればどのようなことが必要かを考える、等

- ・本質軸の視点移動

どうして（なぜ）このようになったのか（このように感じたのか）を考える、その背景にはどのような考え（思い）があったのかを考える、子どもの発言に対して「どうしてこのように考えたのか」、「そのことをもう少し考えるとどういうことになるだろう」と言ったことを問いかけていく、等

(5) 発問の工夫



A 発言を促す発問のタイプ

確認する発問

自由に述べさせる発問

深まりを求める発問

B 資料の内容にかかわる発問のタイプ

気持ちを聞く発問

考えや思いを聞く発問

価値や生き方に迫る発問

C 自己を見つめる発問のタイプ

学びや発見を聞く発問

自分と向き合わせる発問

事後の学習へと向かわせる発問

(6) 実感できる授業、新しい発見のある授業を工夫する

- 道徳的価値の理解に関して
(やっぱり思いやりの心は大切なんだ、こういうことなのか等)
- 人間理解に関して
(やっぱり人間はこのような心をもっているんだ、このような心もあるんだ等)
- 他者理解に関して
(やっぱり友だちもこのような心をもっているんだ、素晴らしい心を持っているなあ等)
- 自己理解に関して
(自分にこのような心があるんだ、新しい自分が発見できた、確実に成長している等)

(7) トータルとしての自己を見つめられるようにする

- ・ 道徳ノートやファイルの活用
(定期的に見直したり、整理しなおしたりする等)
- ・ 「教科書」の活用
(全体を鳥瞰できるページを使いながら定期的に自己を見つめる等)
- ・ 道徳の授業も時には主人公をトータルに見つめる授業を工夫する
- ・ 今まで学んだことを振り返ったり、各視点（自分自身、他の人、集団や社会、生命や自然、崇高なもの）から自己を見つめる授業等も取り入れる

(8) 総合単元的道徳（総合道徳）学習の工夫

重点課題に関して取組む
（様々な課題を自分自身の生き方と関わらせて考えられる）

「特別の教科 道徳」を要に関連する教育活動や日常生活、家庭や地域との連携を考える

原案は教師が示し子どもたちも計画レベルから関われるようにする

保護者や地域の人々にも協力を求める（家庭での取組、人的資源や社会資源の活用）

掲示やノートを通して総合単元的道徳学習が確認できるようにしていく（総合単元的道徳学習用の冊子やノートをもたせる）

途中に学習を見直し計画の改善を図っていく

総合単元的道徳(総合道徳)学習の計画

※「特別の教科 道徳」を要に関連する教育活動を計画的に連携させて道徳学習を計画する

教 科	「特別の教科 道徳」	学級活動	総合的な学習 の時間、行事	日常的取組 (教室環境含 む)	子どもの心 の動き
(教科の特質 に応じた道徳 学習)	(道徳学習の要 として、道徳的 価値の自覚を深 める)	(実践的活動 を重視)	(調べる学習、 体験学習を重 視)	(掲示や朝 の会、帰りの 会でのたが やし、ノート への記入等)	(全体を通 してポイントになる学 習活動等における大き な子どもの 心の動きを 押さえてお く)

家庭や地域での学習

(家族にも協力してもらい、家庭でも目標や取り組みも書けるようにする。地域社会での活動も書く)

個人学習

(自分が心がけたい目標や計画を書く)

その他(留意点等)(この学習用のノートをつくる)

道徳教育がこれからの教育改革の 先導役を果たせるようにしよう

(その要として「特別の教科 道徳」がある)

学校を真の豊かな
人間教育の場
にしよう

